

第1回吉川地域義務教育学校開校準備委員会 議事録（要旨）

日時： 令和8年3月11日(水) 午後7時～午後8時30分
場所： 吉川町公民館 研修室
出席者： 石田 正治 吉川地区区長協議会
貝阪 達弥 吉川地区区長協議会
辻田 敏美智 吉川地区区長協議会
森下 顕 吉川町まちづくり協議会
谷郷 祐次 吉川町まちづくり協議会
安井 由次 吉川町まちづくり協議会
北住 義昭 吉川町まちづくり協議会
荒田 のり子 よかわ認定こども園
谷石 智美 よかわ認定こども園
滝本 志保 よかわ認定こども園
高郷 理加 よかわ認定こども園
黒田 リエ 吉川小学校 PTA
黒田 えりか 吉川小学校 PTA
國嶋 里美 吉川中学校 PTA
栗田 真紀 吉川中学校 PTA
杉原 千二三 吉川小・中学校学校運営協議会
福田 亮 元地域協議会委員
藤本 理恵 元地域協議会委員
富田 佳泰 吉川小学校 校長
宮脇 久典 吉川小学校 教頭
河原 正則 吉川中学校 校長
蓬萊 知子 吉川中学校 教頭
アドバイザー： 兵庫教育大学 安藤福光准教授
事務局： 大北由美教育長、森田眞規教育総務部長、山口正明教育振興部長、
仲谷淳小中一貫教育推進室長、本岡伸朗小中一貫教育推進室主査、
林和己小中一貫教育推進室主査
傍聴人の数： 5名

（事務局司会）

定刻となったので、ただいまから第1回吉川地域小中一貫校開校準備委員会を開会する。開会にあたり、大北由美教育長がご挨拶申し上げます。

（教育長）

令和7年の全国出生数は過去最低の約70万5800人で、三木市も人口減少が進んでいる。三木市は令和3年度から小中一貫教育を推進しており、小学校と中学校を分けずに9年間を一体的に教育する取組を行っている。吉川地域では、子どもたちに適切な

教育環境を提供するために4つの小学校を統合して吉川小学校を開校したが、この小中一貫教育の取組により、同級生の数が減っても、先輩・後輩を含む縦の関係を豊かにすることで、多様な学びを期待している。

また、吉川地域に施設一体型小中一貫校を設置するため、令和5年からの約2年間にわたり地域協議会で地域や保護者等の意見をお聴きしながら、昨年8月に基本構想をまとめ、本日から開校準備委員会が始まる。兵庫教育大学の安藤先生の指導も受けながら、地域・保護者と学校、教育委員会が一体となって新校設立を目指すため、皆様のご協力をよろしくお願いする。

<委員の自己紹介>

(事務局司会)

続いて、委員長・副委員長の選出に移らせていただく。選出方法についてご意見はあるか。

(委員)

事務局の提案を聞きたい。

(事務局司会)

事務局から提案をさせていただくということでよろしいか。

(委員)

異議なし。

(事務局司会)

では、事務局から提案をさせていただく。

(事務局)

吉川地域における小中一貫校の設置において、委員長には上吉川、中吉川、東吉川、みなぎ台の広域にわたる地域に対する豊かな知見と、俯瞰的な視点が重要と考える。その視点で考えると、吉川地区区長協議会長である石田様が適任ではないかと考えている。そして学校の課題を共有し、解決に向けた取り組みの中心的な組織として、まちづくり協議会との連携協力が非常に重要である。さらに新しい学校の具体的な運営、施設設備、教育内容を検討するためには、教育現場に精通した人材が必要となる。そういう意味で、副委員長には、まちづくり協議会会長の森下様と吉川中学校校長の河原様が適任ではないかと考える。

(事務局司会)

以上が事務局案だが皆様いかがか。

<拍手>

（事務局司会）

では、委員長に石田様、副委員長に森下様と河原様にお願いする。

（委員長）

委員長を務めさせていただく石田と申します。日本全体および吉川町でも少子高齢化が進み、小中学校や高校の統廃合が進行している。令和5年から、吉川町で小中一貫校の設立に向けた地域協議会が開かれ、教育委員会を中心に多くの方が尽力された。今後、社会的に様々な課題が予想される中、地域・家庭・学校の三者が連携して素晴らしい教育環境を築く必要がある。思いやりがあり、強く生きる力を持つ子どもたちを育成していきたいと考えている。また、先輩・後輩の縦の関係が薄れている現状に対して、小中一貫校の設立は重要な意義があり、今後の課題も協力しながら乗り越え、吉川町の小中一貫教育を成功させていきたいので、皆様のご協力をよろしくお願いする。

（副委員長）

地域協議会に続き、副委員長を務めさせていただく森下と申します。委員の皆さんで色々話し合い、多種多様な意見を出しながら吉川ならではの施設一体型小中一貫校を目指して進めていきたいと思うので、よろしくお願いする。

（副委員長）

副委員長を務めさせていただく吉川中学校校長の河原と申します。いよいよ5年後の開校に向けて進み始めるのだなという思いである。吉川を大好きな子どもを育てるために、学校運営協議会にも協力頂きながら、教職員一同、三木市で初めての小中一貫校を本当に良い学校にしたいと思っているので、よろしくお願いする。

（事務局司会）

では、ここから議事に入るため、司会進行は石田委員長にお願いする。

（委員長）

それでは僭越ながら、次第に沿って進めていく。次第の4番、事務局説明について事務局から説明をお願いする。

<事務局説明>

（委員長）

ただいまの事務局説明について、質問はあるか。
無ければ次に5番の講演に移る。本日の委員会開催にあたり、大変お忙しい中、兵庫教育大学の安藤先生にお越しいただいた。先生には令和4年度から三木市の小中一貫教育のアドバイザーとして、教職員の研修を初め小中一貫教育の実践において的確なご指導をいただいているところである。本日はお集まりいただいた委員の皆様に、義務教育学校設置に向けた共通認識を持っていただくために講演をしていただく。大変短い時間ではあるが安藤先生どうぞよろしくお願いする。

＜安藤准教授 講演＞

（委員長）

ただいまの講演内容について、質問はあるか。

（委員）

小中一貫校は、上級生が優しくなると言われていたが、この縦につなが教育は私も昔からこうあるべきだと思っている。ただ、上級生が下級生に引っ張られて伸びないということについて少し懸念があるが、それはどうか。

（アドバイザー）

私がこれまで聞いた限りではそのような問題はあまり報告されていないが、明確に答えるのは難しい。一方で、先ほどの説明のように、小中一貫がスムーズ過ぎて上級生が成長しきれない可能性はあるかもしれない。そのため、上級生には上級生としての自覚やリーダーシップを持つ機会を与え、自己決定や役割をしっかりと意識させることが重要である。

（委員）

私も子どもが3人いるが、上の子は下の子の手本でもあり、反面教師でもあると実感している。そういう意味で上級生をいかに育てるかが、学校としてはとても重要なのではないかと思う。

（アドバイザー）

上級生は下級生の手本の役割も果たしつつ、反面教師にもなり得る存在であるため、どのようにその環境を作るかが非常に重要である。日常的に生徒指導の場面を目にすることが、下級生の引き締めや成長の機会になると考えられる。適度な反面教師の役割も成長を促す一因だと考える。

（委員長）

それでは続いて、次第6番の質疑応答に移る。事務局説明や安藤先生の講演その他全体を通して質問等はあるか。

（委員）

今後、全国的に小中一貫校に変わっていくような流れになるのか。

（アドバイザー）

小中一貫校は、少子化や学校の統廃合の影響で徐々に増えているのは確かである。多くの自治体は、一つの施設にまとめて充実した教育環境を提供し、教育の質を向上させることを目指している。形態はさまざまで、施設一体型の小中一貫校を進める自治体もあれば、施設は別でも小中一貫教育を進める自治体もある。いずれにしても小中一貫教育は多くの自治体で推進されており、国の政策転換等がなければ今後も拡大し

ていくと予想している

(委員)

近隣の義務教育学校では、どういう建て方をしている事例が多いのか。

(アドバイザー)

加東市の東条学園は中学校の前に新築で建てた。他にも神戸市、姫路市、養父市、西宮市、豊岡市等の例があるが、既存校舎を流用したり、増築したり様々な例がある。いずれにしろ、敷地の有効活用を考えた事例が多いのではないかと思います。

(委員長)

それではこれで質疑応答を終了する。閉会の前に事務局から事務連絡をお願いする。

(事務局)

4月22日の夜に地域・保護者向けワークショップを実施し、「育てたい子ども像」等について意見交換を行う。年度替わりで忙しい時期だが、なるべく現在の委員様にはご参加をお願いしたい。第2回開校準備委員会は5月中旬以降に予定しており、日程は未定である。連絡は基本郵送だが、補完的にメールやショートメッセージも活用する。委員交代時は組織を通じて報告いただく想定でいる。

(委員長)

それでは閉会にあたり、副委員長から挨拶をお願いする。

(副委員長)

今日は安藤先生にはいろいろと教えていただきました。本当に基礎の基礎だと思うが、今後ともよろしくをお願いしたい。委員の皆様、本日は本当に遅くまでありがとうございました。

(副委員長)

改めて、本日講演いただいた安藤先生に感謝申し上げます。小中一貫校開校に向けて、本当に良い、吉川ならではの学校設立を目指し、皆さんで様々なアイデアを出して力を合わせて進めていきたいので、引き続きよろしくをお願いします。これで第1回吉川地域小中一貫校開校準備委員会全体会を終了する。